

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4290100140		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぶほーむ新里城栄 4階 朗々		
所在地	長崎市城栄町11-2		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果確定日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4290100140-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4290100140-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年2月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所が商店街の一角にあるという特色を活かし、ご入居者の要望に応じて個別に買い物や散歩に出かけられています。商店街の方とも顔見知りとなり、声をかけてもらったりと馴染みの関係を築けています。地域・事業所の行事へもお互いに参加し交流を深めています。また、年間外出行事の他に天気の良い日や四季折々の花が咲く頃には、手作り弁当を持って、公園や海などに出かけたりすることもあります。施設全体での行事も2か月に1回のペースで実施し、地域密着型の特性を活かし、他事業所(認知DS・小規模)との交流も図っています。ご入居者の得意分野を最大限に引き出せるような環境づくりを心がけています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協体制を図っています。また、訪問診療で定期的な医師の往診を受け、充実した医療との連携のもと健康管理を行なっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営推進会議での活発な意見交換や情報収集を通して地域行事への参加や小学校とのふれあいを深め、住民への理解を広げている。職員の意見やアイデアを積極的に取り入れ、職員主導で行事を開催することで、職員の自信や達成感を育み、それが仕事への意欲やサービスの質の向上に繋がっている。利用者と職員が1対1で外出し1日を過ごす企画「あなただけの1日」は、利用者のこれまでのこだわりや大切にしている事を継続するための有意義な取り組みである。母体が医療施設であるため、医療連携体制が整い、利用者の安心した生活の確保と家族との信頼関係が築かれ看取りへと繋がっている。また、自立を目指し、トイレへの誘導や食事時の椅子での座位保持等、利用者の残存機能を活かした取り組みも行っており、地域との連携を大切に、利用者一人ひとりの思いに寄り添う、今後期待される施設である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人のグループホームが作った理念を基本に、開設時に職員全員で独自の理念を考え作りしました。毎日朝の申し送り時に職員で唱和し理念の共有・実践に取り組んでいます。	事業所の開設時に、法人の理念を基に全職員で基本理念考え、2ユニットそれぞれが独自に、分かりやすい言葉で理念を作成している。年2回、ミーティング時に目指す支援の方向性を確認し、理念に基づいた支援ができていないかを「接遇チェック表」で自己評価して、理念が支援に活かされているかを確認している。	理念を毎朝唱和し、半年に1回チェック表で自己評価しているが、毎日の申し送り時等に「昨日の理念に沿った具体的な支援方法や工夫した点、それによる利用者の反応」を職員同士で話し合い、一人ひとりが理念に沿った支援を、具体的に考える事により、理念に基づいた支援がより全職員に浸透することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の時に地域の年間行事予定を教えて頂き、積極的に参加しています。施設の行事にも地域の方の参加があります。又、商店街の一角に立地しているので日常的な散歩や買い物で外出時に交流を深めています。	自治会や商店街組合に参加して、「施設や認知症について」地域住民に説明している。地域や商店街の祭りや行事に参加する、小学生の絵を施設に展示することで小学校との交流を図る、利用者と日常的に商店街に買い物に出かける等、地域住民との関わりや地域活動に積極的に参加し、小学校や地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌や掲示物を通じて、情報発信をしています。又、ボランティアの受け入れも随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開催しており、参加者は地域の代表者、包括又はすこやか支援課、ご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行っています。出席者の方々や家族の方々の助言や要望を頂き地域交流に繋げています。	運営推進会議で、施設の状況や、活動内容を説明している。参加者から地域の情報を収集して積極的に行事に参加することにより、地域との繋がりを広げ、地域の理解を得ている。商店街組合や地域包括支援センターから、近隣の小学校との交流や活動内容を聞き、提案を取り入れ、今後の小学校とのふれあいに繋ぐ等、運営推進会議を活かした取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を作成し、包括支援センターの方より市役所に提出して頂いています。又、介護相談員の受け入れも行って頂いています。	高齢者すこやか支援課より、運営推進会議への参加や会議の「議事録」を市に提出することで、施設への理解を促している。事故報告書を提出する際、市からアドバイスを受け、社会福祉協議会からのボランティア要請を受け入れる等、市との連携を積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみベッド柵やセンサーマットを必要とし、拘束しないケアに努めています。又、身体拘束の勉強会等で職員の意識の向上に取り組んでいます。	法人の介護部として「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して月1回話し合いを行っている。委員会で、身体拘束・虐待に関する「自己点検チェックシート」を作成し、職員が評価後、委員会で集計して課題を見つけ、勉強会等で解決に向けて話し合っている。利用者が、自由に生活できるように、職員は常に利用者の居場所を声かけ等で共有し、利用者の側に寄り添っている。家族の面会時や月1回文書で利用者の様子を家族に伝える事で、家族との密な連携や信頼関係を作っている。また、身体拘束の外部研修にも積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて虐待防止委員会を設置し、研修や勉強会への職員の参加を促し、意識の向上に努めています。ご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉等に注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される方に対し、適切に対応できるよう、関係する資料等を職員へ配布し、勉強会にも出席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個室にて十分な時間をとり、資料を用いながら分かりやすい言葉で説明を行い、納得、理解して頂ける様努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。ご意見箱の設置や、家族へのアンケートにて要望を伺い、伺った意見、不満、苦情はユニットミーティング時や適宜カンファレンスを開き改善策を検討し実施しています。又、運営推進会議にて報告を行なっています。	年2回、無記名で家族にアンケートを実施し、そこで得た家族からの要望や意見をユニットミーティングで話し合い、改善策を検討している。家族からのアンケートと改善策、実施内容は運営推進会議で報告している。玄関にアンケートと報告書を置き、家族が訪問時に確認できるようにしている。また、年1回、利用者と家族、職員で「家族懇談会」を開催し、ホテルで一緒に食事をする事で親睦と信頼関係を深め、意見や要望を話しやすい環境を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて業務改善等検討する機会を設け、業務中に意見や提案が出た場合は職員間で話し合ったり、管理者へ報告し意見、要望の繁栄に勤めています。管理者は個人面談等を行い、職員からの意見を聞く機会を設け、運営に反映させています。	月1回のミーティングで全職員のアイデアや意見を引き出している。勤務体制(同施設内にある認知症対応型通所介護と連携して入浴介助の勤務体制を検討する)や行事(屋台村や喫茶会等)の提案を受け実施する等、職員の意見を運営に反映している。また、勤務体制の改善や提案された行事を職員主導で開催することで、職員の自信や達成感を育み、仕事への意欲やサービスの質の向上に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。又、職員一人ひとりの特性が生かされる役割を見出し、意欲的に仕事に取り組める環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示し、参加を促しています。又、現場で抱える問題をミーティングの場で提議、検討、課題にあった勉強会や職員研修等に参加し、技能・意識の向上を進めています。ミーティングにおいても伝達勉強会、介護技術の勉強会等学ぶ機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の勉強会や交流会に参加させて頂いています。又、互いの運営推進会議に参加し情報交換を行ない、包括的なネットワーク作りやサービス、事業内容の質の向上に取り組んでいます。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用前には、情報収集行ない、本人やご家族の要望に沿ったサービスが行なえるよう努めています。又、暮らしの中で状態に変化がある場合はその都度話が伺えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築けるよう、気軽に要望等話して頂き、相談しやすい環境、すぐに対応出来る環境作りに取り組んでいます。又、来所時には必ず会話をし情報の共有と家族の思いを汲み取るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所や関連施設のサービス内容の説明を行い、あらゆる方向から、ご本人、ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望本当に必要としている事を引き出す為にも、日々の生活の中で、小さな変化を見逃さないように努め、その人らしさのある生活を職員全員で考え、一人一人の生活のリズムを大事にしながら支援できるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を支援する事により、その方が気持ちよくその人らしい生活が出る様に努め、家族でしか満たされないことがある時は、本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支え合えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や商店街への買い物の機会を多く持ち、人とのふれあいを大切に馴染みの関係が継続するよう努めています。又、ご本人が生まれ、慣れ親しんだ場所を訪れる機会を作り、思い出等大切に出来る様に支援しています。	家族から、利用者のこだわりや大切にしている事を聞き取り、楽しく1日を過ごせるように「あなただけの1日」という個別の外出支援を行っている(昔から動物に親しんでいる利用者と、職員が1対1で一日かけて動物園に出かける、温泉が好きな利用者と家族、職員3人で足湯に出かける等)。実施後、家族との会話がスムーズになった等、家族との信頼関係が深まっている。利用者がこだわのお店や生まれた場所を訪れる等、利用者のこれまでの関係やこだわりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事、ご入居者同士の会話等の機会を提供し、よりよい関係が築けるように支援をしています。一対一でのコミュニケーションが難しい場合は、職員を介し関わりを持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の診療所及び他施設を利用されている方もおられる為、面会や行事の際に顔を合わせ、挨拶や話などをしこれまでの関係を保てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中、様子や会話にて希望・意向・悩み等を汲み取り、又、ご家族より情報を収集し環境作りに努めています。意思疎通が困難な方は複数の提案を提供し、自己決定が出来るように本人本位で出来る様に検討しています。	日常の会話の中やアセスメントシート・担当者会議にて希望や意向を汲み取っている。意思疎通が困難な方には現在の状態を良く把握することで何を求めているのかを窺い知るようにしている。壁面に一人一人の意向を筆で書き、出前を取りたい等、叶えられるものは実現に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から話を聞いたり、日常生活の会話の中でこれまであった様々な出来事を知ることが出来る様に努めています。又、職員は情報を共有し、その方らしい趣味や生活が出来るような対応を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合った過ごし方や、趣味等を把握し、日々の変化を記録に残し、申し送りにて共有できるようにし、統一したケア、安心、安全な生活が送れるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ご本人やご家族に要望を伺いミーティング時に検討し意見交換の場を設け介護計画を作成しています。又、定期的にプランの見直しを行ない現状に合わせた支援が出来るよう努めています。	アセスメントは初回時と1年に1回行い利用者の意向を把握し、モニタリングは意向の確認と計画の妥当性や実務内容の評価という観点から毎月行っている。できるだけ職員が家族との関わりを持てるようにと担当制にしている。月に1回のミーティングにて意見交換をし、介護計画を作成している。利用者の意向を受け「あなただけの1日」という支援を作り、足湯や動物園への外出支援や家族からの散髪を頻度を増やして欲しいとの要望等を計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子・状態の変化・健康状態(バイタルサイン)・ご本人やご家族の言葉等を記録に残し、全職員が情報を把握・共有しケアの見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。又、その時の状況に応じて通院・送迎等も行ない安心して生活が出来るよう柔軟な支援サービスに取り組んだ対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街での買い物や散歩、自治会の行事等への参加をする事により、地域の方々と交流する機会が増え、地域の方々のご協力を頂けるよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3~4回、定期的に往診があります。必要に応じご家族が診療に立ち会われています。かかりつけ医の継続は行っていますが、提携医療機関以外は原則としてご家族に対応して頂いています。	入居時にかかりつけ医の継続と、定期的な往診を行っている法人の主治医の説明をしている。母体が医療施設である為、医療連携体制のもと主治医や看護師との協力を図り、安心して医療が受けられるような支援を行っている。定期的な往診は、利用者の健康管理と特変の早期発見の目安となっている。服薬に関しても徹底した管理のもと、一人一人への配薬確認を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師と介護職は、常に情報を共有し、24時間体制で、主治医・看護師・介護職が迅速に対応出来るような体制を作っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報の共有に努めています。又、入院中も定期的に情報収集し状況把握に努め医療機関と相談しながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院が出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状、状態の把握に努め、ご本人家族が安心出来る様に急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。又、重度化や終末期の方針として看取りに関する指針を作成しており、早い段階で話し合いの場を持つように取り組んでいます。	入居時に看取りに関する指針をもとに、本人や家族に説明し、早期からの話し合いを行っている。緊急搬送フローチャート・病状悪化マニュアル・逝去時の対応手順書といった一連のマニュアルに基づいて、医療連携のもと安心した終末期ケアを行っている。法人全体の宿直者も駐在し、緊急時の支援と共に夜勤職員のメンタル面での不安感の軽減も図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時や事故等の対応が出来るよう、取り組んでいます。又、急変時の対応についてのマニュアルを作成しており、全職員が周知出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練と毎月の部分訓練を実施し、初期消火、通報、避難誘導等のき訓練を行っています。地域の方々へも参加して頂けるように、運営推進会議にて自治会・老人会・商店街等へ訓練への参加を呼びかけ地域との協力体制作りを努めています。同時に消防署より指導を受ける様にしています。。	上半期と下半期で消防計画を策定し、年に2回避難訓練を行っている。10月には夜間を想定した訓練も行っている。手順書はフローチャートで示されている。法人の建物全体を対象とした各事業所ごとの部分訓練も行われている。部分訓練により、各フロアーの動きも詳細に把握できるものとなってきたことである。訓練には福祉総務課の参加もあり、行政からの助言も得ている。今後地域住民の参加を勧めていくことである。	風水害に対するフローチャートはあるが、防災計画が策定されていない。今後計画の策定と共に備蓄品の検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人。GHの理念にもあるように「人権と尊厳を守りましょう」との理念に基づき個々の尊厳を損わないよう配慮しています。又、言葉掛けや接遇について委員会活動にて勉強会の開催等により意識向上出来る様に努めています。	接遇のチェックシートにて職員各自が、人格の尊重に務めている。委員会活動にて研修やふりかえりを行い、職員へフィードバックしている。入浴や排泄時等にプライバシーを損ねないさりげない声かけや誘導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いや要望を尊重し、自己決定が出来るよう努めています。又、個々の思いを引き出せる様に取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の要望を伺い、希望に沿うように、その方のペースで安心した生活が送れる様に支援をなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問美容サービスを利用しています。又、お化粧品も職員と一緒にするなどその人らしいおしゃれが来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等ご入居者と共に行ない同じテーブルで楽しく食事が出来るよう努めています。又、季節感を味わって頂く為、季節に合わせて果物や食材を替え、誕生日等特別な日には、ご入居者の好む料理を献立に取り入れています。	嗜好調査を行い、誕生日等に好きな食べ物を提供している。フロア中央のキッチンより調理の音や匂いがし、五感を刺激するものとなっている。職員も利用者と共に同じ食事を楽しんでいる。車いすの方もできるだけテーブルの椅子へと移乗し食事を摂ることにより、足で踏んばり立位保持の意識づけを行っている。食事時に床に足が届かない方へは手作りの箱等で足載せを作り、安定した座位を保持する工夫をしている。利用者もテーブルや食器を拭いてお手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、食事摂取量を個別に調整しています。又、食意低下の場合にはお好きな食物を提供し、バランスよく栄養が取れるよう支援しています。1日に必要な水分量の確保にも気を配り、好みの飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行っており、ご入居者のレベルに合った口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成・活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握出来るよう努めています。又、ご本人の負担にならないように出来るだけトイレでの排泄が出来るよう誘導や声掛けを行い、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行っています。	オムツをできるだけつけないような取り組みを行っており、排泄チェックシートにて利用者一人一人の排泄の24時間のサイクルを把握し、声掛け定時誘導を行っている。排泄の失敗や失禁を無くし、人としての尊厳や自信の回復へと努めており、自立へ向けての残存機能を活かす取り組みを行っている。効果として、オムツよりハビリパンツへと移行した方もいるとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを作成し、排便状況を把握しています。又、排便コントロールが難しい方は、薬の調整、水分摂取、乳製品・繊維の多い食物などで調整を行いコントロールが上手に行くように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴して頂けるよう、声掛け、タイミング等を良く見て支援しています。お湯加減を把握し、入浴剤を使用するなどし、気持ちよく、安全にゆっくり入浴して頂けるよう努めています。	入浴は1日3人位を目安で、ゆっくりと楽しめるように支援している。同性介助にてプライバシー保護にも努めている。シャンプーの持ち込み等、各利用者のこだわりにも対応しており、心地良い入浴タイムを提供している。タオルも間違えないように色で仕分けし、眼にも鮮やかなものとなっている。重度な方の入浴等、法人の事業所の管理者が参画するサービス向上委員会にて法人全体で支援していくことを検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう、生活歴や習慣をを参考にし、体操や散歩など日中帯に活動を促す事により生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりの体調や希望を考慮し、適度な休息が出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに確認出来る様にファイルを作成し、服薬までには数回チェックし間違いがない様に行っています。薬セットや配薬の際は、ダブルチェックを行い確認しつつ服薬を行なっています。又、薬の変更時は申し送りや記録に残し、全職員が情報を把握・共有出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいを持って生活して頂けるよう、趣味、特技等を活かした作業、遊びを提供し、楽しみ、気分転換が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて、散歩や買い物へ出掛けるように心がけています。又、定期的に企画を立て行楽地や戸外に出かけ季節感を味わい気分転換が図れるように支援しています。 一人一人に合わせた行事も行ない、個別対応にも努めています。	くんちやランタン見物・商店街の文化祭・コスモス見学・足湯ドライブ等年中行事や季節に応じて積極的に外出支援を行っており、利用者の満足度を高めるものとなっている。外出支援は、企画書等外出記録に記され運営推進会議にて報告されている。年に1回の家族懇親会はホテルでの食事会を催し豪華なものとなっている。「わたしの一日」と呼ばれる本人の希望に応じた、個別対応の支援にも力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にてご家族より現金を預かり、必要時には支払い支援しています。可能な方には買い物、支払い等が見守りにて出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ、又、ご家族の理解、協力を得ながら家族との絆を大切にしたい取り組みを行い、自宅へ電話を掛けるなどの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内でも四季を感じれる様、季節に合わせた装飾をご入居者と共に作成し、飾りつけなどアクセントを持たせた空間作りや、行事の写真を飾る等、過ごしやすい環境作りに努めています。	陽当たりの良い居室に、風通しのあるフロアーにて四季や風を感じ取れる居心地の良い住まいとなっている。居室のドアには、職員が書いた利用者一人一人の似顔絵が貼られており「似とるね。」と微笑ましい会話が聞こえてくる。エレベーターのボタン隠しの暖簾や、ドアの取っ手に箱をかぶせたりと職員の工夫が成されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫したり、ソファではテレビやお好きなDVDを鑑賞されたり、洗濯物たたみや編み物など一人ひとりが過ごしたい場所でお好きな事をされ、個々のペースに合わせて過ごせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が過ごしやすいように、今まで使ってきた馴染みの家具や、洋服等持ってきて頂いています。又、居室内を気持ちよく過ごしやすい空間に出来る様、清掃にも気を配り行っています。	居室には畳のみ・畳と床・フローリングの3タイプがあり、利用者の意向や状態に合わせてようにしている。箆箆や冷蔵庫・仏壇等使い慣れた物を持参し、家とのギャップが無いようにしている。趣味の三味線や百人一首も居室の傍らに置き、余暇の楽しみとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する上での動線上に危険が無いかを見極め整備し、身体機能の変化などの状態に応じた福祉用具の利用などにより、生活環境の改善に努めています。又、一人一人のできる事を活かし、残存機能を活かし自立した生活が送れるよう支援をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4290100140		
法人名	医療法人社団 健昌会		
事業所名	ぐるーぷほーむ新里城栄 5階 陽々		
所在地	長崎市城栄町11-2		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果確定日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4290100140-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosovoCd=4290100140-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年2月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所が商店街の一角にあるという特色を活かし、ご入居者の要望に応じて個別に買い物や散歩に出かけています。商店街の方とも顔見知りとなり、声をかけてもらったりと馴染みの関係を築いています。地域・事業所の行事へもお互いに参加し交流を深めています。また、年間外出行事の他に天気の良い日や四季折々の花が咲く頃には、手作り弁当を持って、公園や海などに出かけたりすることもあります。施設全体での行事も2か月に1回のペースで実施し、地域密着型の特性を活かし、他事業所(認知DS・小規模)との交流も図っています。ご入居者の得意分野を最大限に引き出せるような環境づくりを心がけています。母体が医療施設である為、医療面でも安心して頂けるように主治医、看護師との協力体制を図っています。また、訪問診療で定期的な医師の往診を受け、充実した医療との連携のもと健康管理を行なっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人のグループホームが作った理念を基本に、開設時に職員全員で独自の理念を考え作りました。毎日朝の申し送り時に職員で唱和し理念の共有・実践に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の時に地域の年間行事予定を教えて頂き、積極的に参加しています。施設の行事にも地域の方の参加があります。又、商店街の一角に立地しているので日常的な散歩や買い物で外出時に交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌や掲示物を通じて、情報発信をしています。又、ボランティアの受け入れも随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開催しており、参加者は地域の代表者、包括又はすこやか支援課、ご入居者の家族を交えてホームの活動や報告を行っています。出席者の方々や家族の方々の助言や要望を頂き地域交流に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を作成し、包括支援センターの方より市役所に提出して頂いています。又、介護相談員の受け入れも行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に関わる場合のみベッド柵やセンサーマットを必要とし、拘束しないケアに努めています。又、身体拘束の勉強会等で職員の意識の向上に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて虐待防止委員会を設置し、研修や勉強会への職員の参加を促し、意識の向上に努めています。ご入居者一人ひとりの行動や身体の状態、言葉等に注意を払い観察し、問題や異常があれば話し合い対応するように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される方に対し、適切に対応できるよう、関係する資料等を職員へ配布し、勉強会にも出席しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には個室にて十分な時間をとり、資料を用いながら分かりやすい言葉で説明を行い、納得、理解して頂ける様努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご入居者、ご家族も出席して頂き、ご意見を伺っています。ご意見箱の設置や、家族へのアンケートにて要望を伺い、伺った意見、不満、苦情はユニットミーティング時や適宜カンファレンスを開き改善策を検討し実施しています。又、運営推進会議にて報告を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて業務改善等検討する機会を設け、業務中に意見や提案が出た場合は職員間で話し合ったり、管理者へ報告し意見、要望の繁栄に勤めています。管理者は個人面談等を行い、職員からの意見を聞く機会を設け、運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、状況把握に努めています。又、職員一人ひとりの特性が生かされる役割を見出し、意欲的に仕事に取り組める環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に積極的に参加出来るよう案内を掲示し、参加を促しています。又、現場で抱える問題をミーティングの場で提議、検討、課題にあった勉強会や職員研修等に参加し、技能・意識の向上を進めています。ミーティングにおいても伝達勉強会、介護技術の勉強会等学ぶ機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の勉強会や交流会に参加させて頂いています。又、互いの運営推進会議に参加し情報交換を行ない、包括的なネットワーク作りやサービス、事業内容の質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用前には、情報収集行ない、本人やご家族の要望に沿ったサービスが行なえるよう努めています。 又、暮らしの中で状態に変化がある場合はその都度話が伺えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築けるよう、気軽に要望等話して頂き、相談しやすい環境、すぐに対応出来る環境作りに取り組んでいます。又、来所時には必ず会話をし情報の共有と家族の思いを汲み取るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、他事業所や関連施設のサービス内容の説明を行い、あらゆる方向から、ご本人、ご家族がその時に必要としているサービスの選択肢を広げられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望本来に必要としている事を引き出す為にも、日々の生活の中で、小さな変化を見逃さないように努め、その人らしさのある生活を職員全員で考え、一人一人の生活のリズムを大事にしながら支援できるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を支援する事により、その方が気持ちよくその人らしい生活が出る様に努め、家族でしか満たされないことがある時は、本人の状況、思いをご家族にお伝えし、ご家族と一緒に支え合えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や商店街への買い物の機会を多く持ち、人とのふれあいを大切にし馴染みの関係が継続するよう努めています。。又、ご本人が生まれ、慣れ親しんだ場所を訪れる機会を作り、思い出等大切に出来る様に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、合同行事、ご入居者同士の会話等の機会を提供し、よりよい関係が築けるように支援をしています。一対一でのコミュニケーションが難しい場合は、職員を介し関わりを持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の診療所及び他施設を利用されている方もおられる為、面会や行事の際に顔を合わせ、挨拶や話などをしこれまでの関係を保てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中、様子や会話にて希望・意向・悩み等を汲み取り、又、ご家族より情報を収集し環境作りに努めています。意思疎通が困難な方は複数の提案を提供し、自己決定が出来るように本人本位で出来る様に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から話を聞いたり、日常生活の会話の中でこれまであった様々な出来事を知ることが出来る様に努めています。又、職員は情報を共有し、その方らしい趣味や生活が出来るような対応を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合った過ごし方や、趣味等を把握し、日々の変化を記録に残し、申し送りにて共有できるようにし、統一したケア、安心、安全な生活が送れるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ご本人やご家族に要望を伺いミーティング時に検討し意見交換の場を設け介護計画を作成しています。又、定期的にプランの見直しを行ない現状に合わせた支援が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の様子・状態の変化・健康状態(バイタルサイン)・ご本人やご家族の言葉等を記録に残し、全職員が情報を把握・共有しケアの見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご入居者にとって負担となる受診に関しては訪問診療を活用しています。又、その時の状況に応じて通院・送迎等も行ない安心して生活が出来るよう柔軟な支援サービスに取り組んだ対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街での買い物や散歩、自治会の行事等への参加をする事により、地域の方々と交流する機会が増え、地域の方々のご協力を頂けるよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3~4回、定期的に往診があります。必要に応じご家族が診療に立ち会われています。かかりつけ医の継続は行っていますが、提携医療機関以外は原則としてご家族に対応して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師と介護職は、常に情報を共有し、24時間体制で、主治医・看護師・介護職が迅速に対応出来るような体制を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報の共有に努めています。又、入院中も定期的に情報収集し状況把握に努め医療機関と相談しながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院が出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状、状態の把握に努め、ご本人家族が安心出来る様に急変時の対応連絡体制のマニュアルを作成しています。又、重度化や終末期の方針として看取りに関する指針を作成しており、早い段階で話し合いの場を持つように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会に参加し、急変時や事故等の対応が出来るよう、取り組んでいます。又、急変時の対応についてのマニュアルを作成しており、全職員が周知出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練と毎月の部分訓練を実施し、初期消火、通報、避難誘導等のき訓練を行っています。地域の方々へも参加して頂けるように、運営推進会議にて自治会・老人会・商店街等へ訓練への参加を呼びかけ地域との協力体制作りを努めています。同時に消防署より指導を受ける様にしています。。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同法人。GHの理念にもあるように「人権と尊厳を守りましょう」との理念に基づき個々の尊厳を損ねないように配慮しています。又、言葉掛けや接遇について委員会活動にて勉強会の開催等により意識向上出来る様に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いや要望を尊重し、自己決定が出来るよう努めています。又、個々の思いを引き出せる様に取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の要望を伺い、希望に沿うように、その方のペースで安心した生活が送れる様に支援をなっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問美容サービスを利用しています。又、お化粧品も職員と一緒にするなどその人らしいおしゃれが来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等ご入居者と共に行ない同じテーブルで楽しく食事が出来るよう努めています。又、季節感を味わって頂く為、季節に合わせ果物や食材を替え、誕生日等特別な日には、ご入居者の好む料理を献立に取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、食事摂取量を個別に調整しています。又、食意低下の場合にはお好きな食物を提供し、バランスよく栄養が取れるよう支援しています。1日に必要な水分量の確保にも気を配り、好みの飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行っており、ご入居者のレベルに合った口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作成・活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握出来るよう努めています。又、ご本人の負担にならないように出来るだけトイレでの排泄が出来るよう誘導や声掛けを行い、失敗が少なくなるよう自立に向けた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを作成し、排便状況を把握しています。又、排便コントロールが難しい方は、薬の調整、水分摂取、乳製品・繊維の多い食物などで調整を行いコントロールが上手く行くように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴して頂けるよう、声掛け、タイミング等を良く見て支援しています。お湯加減を把握し、入浴剤を使用するなどし、気持ちよく、安全にゆっくり入浴して頂けるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう、生活歴や習慣をを参考にし、体操や散歩など日中帯に活動を促す事により生活のリズムを整えるよう努めています。又、一人ひとりの体調や希望を考慮し、適度な休息が出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに確認出来る様にファイルを作成し、服薬までには数回チェックし間違いがない様に行っています。薬セットや配薬の際は、ダブルチェックを行い確認しつつ服薬を行なっています。又、薬の変更時は申し送りや記録に残し、全職員が情報を把握・共有出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいを持って生活して頂けるよう、趣味、特技等を活かした作業、遊びを提供し、楽しみ、気分転換が出来るよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、散歩や買い物へ出掛けるように心がけています。又、定期的に企画を立て行楽地や戸外に出かけ季節感を味わい気分転換が図れるように支援しています。 一人一人に合わせた行事も行ない、個別対応にも努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にてご家族より現金を預かり、必要時には支払い支援しています。可能な方には買い物、支払い等が見守りにて出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ、又、ご家族の理解、協力を得ながら家族との絆を大切にしたい取り組みを行い、自宅へ電話を掛けるなどの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内でも四季を感じれる様、季節に合わせた装飾をご入居者と共に作成し、飾りつけなどアクセントを持たせた空間作りや、行事の写真を飾る等、過ごしやすい環境作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫したり、ソファではテレビやお好きなDVDを鑑賞されたり、洗濯物たたみや編み物など一人ひとりが過ごしたい場所でお好きな事をされ、個々のペースに合わせて過ごせるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が過ごしやすいように、今まで使ってきた馴染みの家具や、洋服等持ってきて頂いています。又、居室内を気持ちよく過ごしやすい空間に出来る様、清掃にも気を配り行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する上での動線上に危険が無いかを見極め整備し、身体機能の変化などの状態に応じた福祉用具の利用などにより、生活環境の改善に努めています。又、一人一人のできる事を活かし、残存機能を活かし自立した生活が送れるよう支援をしています。		